

ゲーム草案まとめ

- ・ストーリーだけ

勇者によって魔王の野望は打ち砕かれ、平和が訪れた世界。そんな世界で勇者は王子となって王の姫と結婚し、王子として仕事を全うしていた。そんなある日、勇者のメンバーである***が久しぶりに勇者に会いに行こうと城下町へと足を踏み入れる。

そんな城下町は変わり果てていた。煌びやかな装飾、金をふんだんに使った城、高級品で身を包んだ住民、とても同じ世界にいる人間とは思えなかった。

そんな町をみて***は戸惑いを隠せなかった。そんな所に王子（元勇者）が現れる。王子は***を見るなり懐かしそうに***を見つめ、城へ来るよう***へ進言する。王子に言われるがままに城へ入る***。城の内部はやはりすさまじく豪華なものであった。奥に進むと王とその妃がおり、***を見ては懐かしそうに昔の話をし始めた。話はとても長く***は王に一言言おうとしたがその前に、とある男が王に報告をしにあらわれた。その男は西の勢力を根絶やしにしたという旨を報告したところ、王は大いに喜びその男にとある「褒美」を授けた。***はその男に既視感を覚え、話しかけて見るとなんと、男は***とともに魔王を倒した###であったた

め、***は久しぶりの再開に嬉しく思った。

その日は、豪華な食事会が開かれ、久しぶりに再開したメンバーと共に食事を楽しんだ。その後、***は王子が手配してくれた寝室で一夜を過ごした。...と思ったが、***はどこから狂った男性の声が聞こえてきて目が覚めてしまった。その声はずっと続き、***はこのまま寝れないのかと思っていたが突如としてその声は消えた。まるでその人が消えてしまったかのように...***は気にしないことにしてすぐに寝た。

次の日、***は王子に昨日の男性の件について聞いた。王子はそれは下民であるから気にしなくてもよいとのことであった。王子と別れた***はやはり気になったのでその下民達が住まう町へと向かった。そこは城下町と繋がってはいるものの、煌びやかな町とは相反するほど汚く、人が住むにはあまりにも衛生状況が悪かった。***は何とも言えない寒気を感じた。***に気づいた住民はすぐに物乞いを始めた。その物乞いはとても醜い物であり、物乞いに来た人が物乞いをする人を殴り、「この人は私に食べ物をあげようとしているのよ！」と怒声をあげた。その怒声が他の住民にも聞こえ、さらに多くの住民が物乞いを始めた。恐怖を感じた***は逃げるようにその場を後にした。

その住民達は追ってはこなかった。

命からがら町を出た***はとある人物と出会った。それは###ら一行であった。###は***の顔を見つめ「あいつらのせいだな、あの外道らめ」と小声でそう言いその場を後にした。***は###の言動の意味がわからなかったため、###の後をひっそりついていった。そこでは###やが例の住民達をなぶり殺したり、拷問したりしており###はそれを楽しんでいるように思えた。そして、###の目は少し焦点があってないようにも感じた。***はそのカオスな光景に絶句しそこから動けずにいた。...しばらく時間がたった後***は帰路へとついた。***はベットで「私たちの掴んだ平和はこんなに醜いのか」と思い絶望感に飲み込まれたまま床に伏した。

翌朝、***は寝不足になりながらもこの事実を王子に伝えるために再び、城へと向かった。そこで王子と出会い***は###はどうしてあんなことになってしまったのかと聞いたが王子は「###を悪く言うのはやめろ。」と淡白に***の言葉を切り捨てた。***は王子も人が変わってしまったかのように感じた。***はどうして2人とも変わってしまったのかを調べるため、食べ物を持ってまたあの町へ向かった。住民は壊れた人形のように物乞いしていたが***が食べ物をあ

げると、住民たちは***を信用に値する人物だと思ったのか、***に王や王子、その取り巻きについての情報を話し始めた。話によると王は昔から強欲な王であった。王は欲しいものは何でも手に入れる人で、たとえそれが絶対に手に入らない物だったとしても下民などを使って手に入れていた。気に入らない者や王に歯向かう者は見せしめとして他の住民の前で処刑するなどといった残虐な行為も行っていたという。***は衝撃を受けそれと同時に怒りが込みあがってきたが一旦それを抑え、ならなぜ勇者メンバーが来た時は王は優しくったのかと問うと、彼らは「魔王が邪魔だったんだよ」と答え、「王は魔王の持つ水晶がどうしても欲しかったそう。その水晶はどんな願いでも叶えることもできる水晶だった。そのために彼は勇者を利用したのさ。そして、魔王が世界を奪おうとしているという話も彼が作った作り話。実際は魔王は人類と共存することを望んでいたそう。つまり、勇者たちは王の掌でヒーローごっこをしているだけだったんだよ。」と答えた。それを聞いた***は激昂し「じゃあなぜ勇者や###はあんなやつと一緒に生活しているんだ」というと「洗脳されているのさ、王に」と別の人が答え、続いて、「彼はそのことがばれるのを防ぐため、勇者やそのメンバー達を「褒美」という体で

薬漬けにし、記憶を曖昧にし、無理やり勇者を王子、その他のメンバーは王の従者とすることで民にも不信感を与えずに済むからな。」と言った。***は一瞬疑問が浮かんだが、それよりも勇者達がそんなことになっている現状に激しく怒りを感じ、あの王こそ真の魔王ではないかと思った。

次の日、***は魔王軍の残党がいると言われているアジトへと向かった。その目的は戦力を集め、勇者たちを解放し、悪王を打ち倒すためであった。果たして、***は王を倒し、勇者達を解放することができるのか...***の真の冒険が今始まる！

???「報告します。***が魔王軍の残党のメンバーになりました。どうなさいますか？」

王?「まだよい。今は泳がせておいて後から一掃してくれるわ。はっはっは」

To Be Continue...

***や###は人物名ですが特に決めていません